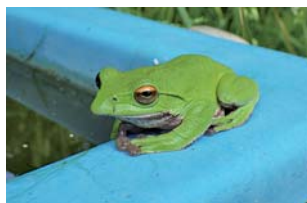


すずめ野菜

-砂丘地の畑の生きもの-



大 切 な つ な が り



畑の生きものを守るのはなぜ？

畑にはいろいろな環境要素がある

畑は多種多様な植物が栽培されていて、栽培者によって栽培方法も多様であり、いろいろな大きさや形の畑があり、またビニールハウスや土壌pHの調整など、田んぼと比べると物理的・化学的環境要素をある程度変化させている側面があります。そのため、すんでいる生物にも田んぼとは違う多様性があります。

都市の中にもある生物生息空間

田んぼよりは灌漑条件に制限されない、小さな面積でも営農できるという点から、代都市の中にも点々と畑がみられます。畑が、人工的な要素が強い都市部の中での貴重な生物生息空間になっている場合がよく見られます。そのような場合、畑は地域の環境の中での特別な意味を持ちます。

身近な生きもののすみか

モンシロチョウやナナホシテントウ、コガネムシなど、童謡や歌謡曲などにも登場する生きものが畑にすんでいます。モンシロチョウは一時期かなり減ったといわれていますが、キャベツ畑が身近な場所からなくなってきていることと関係しているようです。最近では、ムラサキハナナなどを食草にして復活してきているようです。すずめ野菜を栽培している畑ではアズマヒキガエルやヤモリなどがすんでいます。また、クロサンショウウオが現れたことがあります。

生きものがいる畑は、人にとっても良い

天敵がすめるようにしておくくと害虫被害が広がらない、そのために農薬をあまり使わなくてもよく、人にとっても安全な野菜が採れる畑になります。とくに家庭菜園では、狭い空間で多様な野菜をつくることが多いので、常にいろいろな植物が生育しているため、天敵を含む多様な生物が住み続けることが可能なので、畑に食物連鎖のある生態系が生まれます。



モンシロチョウ

カブを抜いた穴にいた
トノサマガエル

さつまいもを食べる
コガネムシの幼虫



すずめ野菜は、
農薬を使っていません。
化学肥料も使っていません。

すずめ野菜のとりくみ

河北潟は、海と風の自然の力で堆積した砂丘によって、
海から切り離されるようにできた湖です。

2005年、NPO法人河北潟湖沼研究所は、
河北潟の水辺にはびこる外来植物チクゴスズメノヒエを
水辺から取り除く活動を始めました。

活動のたびにでてくる大量のチクゴスズメノヒエ。

栄養分の少ない砂丘(内灘砂丘)と、栄養分の豊富な河北潟、
となりあう異なる環境を活かすことで、

化学肥料や農薬の使用を減らすことができないだろうか、
潟と砂丘と人の環で環境を改善しよう、

そうしてはじまったのが「すずめ野菜」の取り組みです。

これを有効活用できないかと、堆肥化することを模索し始めました。

2010年からチクゴスズメノヒエ堆肥を使用した試験栽培がはじまりました。

すずめ野菜をいまの畑でつくりはじめたのは、2012年のことです。

現在は、河北潟のチクゴスズメノヒエや水草、ヨシ、

畑でうまれた雑草などを山積みして、土づくりもおこなっています。



おいしい野菜で水辺保全

砂丘

河北潟

制作／NPO法人河北潟湖沼研究所

TEL 076-288-5803 Fax 076-255-6941

URL <http://kahokugata.sakura.ne.jp/>

Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp



本パンフレットは「ゆうちょ エコ・コミュニケーション」
からの寄付を活用して作成しました。